

おわりに

筆者は中国人留学生であり、博士論文の主たる研究目的は、中国における聴覚障害児の音声聴取における、中国語（現代漢民族共同語——普通話）の音韻特徴と韻律特徴、ならびにその聴能学的評価を研究することである。

中国語普通話は、声調言語（tone language）であり、主として四声という声調によって、語の意味が異なるという特徴をもつ。

中国語普通話における問題点をより鮮明にするために、前期修士論文においては、日本語音声について、聴覚障害児の韻律聴取の研究を行った。日本語音声の韻律情報として、アクセントとイントネーション（付録を参照）をとりあげた。

そして、後期博士論文においては、中国語音声について、聴覚障害児の韻律聴取における主に中国語普通話の四声とイントネーションを中心として、研究を行った。

日本語の場合、韻律聴取についての研究が少なく、評価バッテリーが用意されていないのでオリジナルに開発することにした。また、音声聴取における韻律の果たす役割を明確にするために、音韻知覚との関係を検討する必要があると考え、音韻識別検査を行った。

中国語では、従前の語音聴取検査に用いられているものは、音韻と韻律を独立に評価できるものではなかった。そこで、独立に評価できる評価バッテリーの開発から行うことにした。

中国語普通話の検査バッテリーの開発において、日本語と同様（あるいは類似）の検査法を用いて、研究結果を比較できるようにした。

今後、この論文がこれから皆様および中国の心身障害児教育に関連する人々に少しでも生かされて、お返しができると思ってやみません。

本研究を進めるにあたっては多くの方に大変お世話になりました。

まず、生活面においてお世話下さった諸身元保証人方と神林奨学金審査委員会の皆様に、厚くお礼申し上げます。

また、資料収集に御協力賜りました日本特殊教育学会名誉会員の山口薫先生、日本国立特殊教育総合研究所名誉所員の菅原廣一先生、日本国立身体障害者リハビリテーションセンター第二機能回復訓練部の白坂康俊先生、中国康復研究中心聴力言語科の李勝利先生、北京博愛医院康復部言語療法科の衛冬潔先生、中国聾児康復研究中心の牛鳳蘭女史に厚くお礼申し上げます。

また、実験にご協力賜りました天津理工学院聾人工学院の鮑国棟院長先生、李強先生、天津聾哑学校の孫万里院長先生、胡愛新先生に深く感謝申します。

最後に、指導教官の吉野公喜先生、吉岡博英先生、鷲尾純一先生、加藤靖佳先生をはじめとする心身障害学系の諸先生におきましては並々ならぬご指導とご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。